

経済水道委員会

説明資料

名古屋ポストン美術館について

平成29年4月13日
観光文化交流局

目

次

頁

1	名古屋ボストン美術館の概要	1
2	金山南ビル名古屋ボストン美術館棟活用調査（平成28年度実施）	5
3	今後の予定	6

1 名古屋ポストン美術館の概要

(1) 経緯

年 月	経緯等
平成 3年10月	・名古屋商工会議所（以下「会議所」という）から名古屋ポストン美術館の設置場所について、協力依頼
平成 3年11月	・会議所内に「名古屋ポストン美術館設立準備委員会」（以下「準備委員会」という）が発足
平成 5年10月	・会議所及び準備委員会から名古屋市・愛知県に対し、名古屋ポストン美術館設立に関する財政支援の要請
平成 7年 3月	・名古屋市会において、名古屋ポストン美術館の運営財団の基本財産及び経営安定化基金への出捐金予算を議決
平成 7年11月	・財団法人名古屋国際芸術文化交流財団（以下「財団」という）の設立
平成 7年12月	・財団と米国ポストン美術館との間で、名古屋ポストン美術館の設立契約を締結
平成 8年 1月	・財団と名古屋市との間で、経営安定化基金に関する覚書を締結
平成11年 2月	・財団と名古屋市との間で、公有財産有償貸付契約を締結
平成11年 4月	・名古屋ポストン美術館開館
平成18年 2月	・会議所及び財団から名古屋市・愛知県に対し名古屋ポストン美術館の運営に関する財政支援の要請
平成18年 3月	・財団と米国ポストン美術館の間に、名古屋ポストン美術館の運営に関する契約書を締結
平成18年 5月	・財団と名古屋市との間で、名古屋ポストン美術館の運営に関する覚書を締結
平成23年 4月	・公益財団法人へ移行
平成28年 5月	・財団理事会において、平成30年度末での事業終了を決定

(2) 内容

区 分	内 容
運 営 団 体	公益財団法人名古屋国際芸術文化交流財団
県・市の負担	基本財産：4億円のうち、県・市各1億円 経営安定化基金：30億円（県・市各15億円）
経済界の負担	基本財産：4億円のうち、2億円 運用財産：110億円 当初 44億円 追加 31億円 再追加35億円
契 約 期 間	平成31年3月31日までの20年間
事 業 内 容	① 名古屋ボストン美術館の運営を通じて、愛知県民に米国ボストン美術館の世界的コレクションや国内美術館の名品を鑑賞する機会を提供する事業 ② 愛知県民に対して国際的な芸術文化に接する機会を提供する事業 ③ 愛知県の地域文化の振興を図るため、シンポジウム、講演会等を開催する事業 ④ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3) 施設

区 分	内 容	
所在地	名古屋市中区金山町一丁目1番1号	
建築時期	平成11年3月竣工	
取得額	4,375,879,772円	
延床面積	5,815.93㎡	
所有者	名古屋市	
貸付契約	貸付先	公益財団法人名古屋国際芸術文化交流財団
	貸付料	107,109千円(平成29年度予算)
	現貸付期間	平成20年4月1日から平成30年3月31日
施設内容	3階：エントランスホール、ミュージアムショップ、收藏庫、事務室等 4階：ポストンギャラリー 5階：オープンギャラリー、レクチャールーム、図書コーナー	

(4) 名古屋ポストン美術館の運営に関する覚書

締結日	平成18年5月10日
内 容	<p>① 名古屋市の出捐する経営安定化基金を取り崩す場合、限度額を10億円とする</p> <p>② 取り崩しに当たっては、経済界からの寄付金を原資とする運用財産を先に充当し、その後経営安定化基金の取り崩しを行う</p> <p>③ 名古屋ポストン美術館が行う企画展について、財団法人名古屋国際芸術文化交流財団は、名古屋市民のニーズを踏まえ展示のテーマ及び作品を決めるとともに、多くの来場者につながる展示の工夫をする</p> <p>④ 新たな財政上の支援要請があっても、これ以上の支援を行わない</p>

(5) 入場者数等の推移

区 分	企画展入場者数	事業収入
平成11年度	571,363人	639,325千円
平成12年度	113,381人	156,777千円
平成13年度	160,481人	178,794千円
平成14年度	162,596人	149,896千円
平成15年度	134,819人	132,809千円
平成16年度	126,931人	136,803千円
平成17年度	137,932人	108,303千円
平成18年度	166,427人	117,063千円
平成19年度	146,500人	127,162千円
平成20年度	171,645人	150,146千円
平成21年度	232,711人	225,283千円
平成22年度	87,942人	64,763千円
平成23年度	74,845人	53,435千円
平成24年度	319,008人	284,181千円
平成25年度	165,634人	128,738千円
平成26年度	183,281人	172,574千円
平成27年度	142,590人	123,121千円
合 計	3,098,086人	2,949,173千円

(6) 当初見込みと実績

区 分	当初見込み	実 績
事業収入	約5.5億円/年	約1.4億円/年
入場者数	約33万人/年	約16万人/年

注1 当初見込みは平成11～30年度の20年間の平均

2 実績は平成25～27年度の3年間の平均

3 事業収入には、財産運用益、賛助会費、寄付金等の収入は含まない

(7) 効果

- ・米国ボストン美術館が所蔵する貴重な作品を見る機会を市民に提供し、本市の文化振興に寄与した
- ・当初予定していた年間約33万人の入場者数は、達成できていないが、これまで企画展に300万人以上の方が訪れ、金山駅周辺のにぎわいづくりに貢献した

2 金山南ビル名古屋ボストン美術館棟活用調査（平成28年度実施）

(1) 趣旨

名古屋ボストン美術館と米国ボストン美術館との契約が平成31年3月31日で満了することを見据え、本市の普通財産である施設の今後の活用のあり方を整理する

(2) 調査結果の概要

ア 周辺環境等の状況

- ・金山地区は名古屋地域屈指のターミナルを持ち、中心地の一つとしての役割を果たすことが期待されている。一方で、金山南ビルが位置する金山地区の南側には集客施設が乏しく、来訪者の動線は金山駅北側に集中している
- ・駅北のアスナル金山では若年層の訪問が多い一方で、金山南ビル訪問者の年齢層は高く、若年層をあまり取り込めていない

イ 他都市の事例調査

「文化振興」や「にぎわい」に寄与する他都市の施設等を調査した結果、次の特徴が見られた

- ・魅力的なコンテンツ等による集客
- ・テナント等による施設の複合化
- ・市民とクリエイターとの交流機会の提供

ウ 今後の施設活用に当たっての主な課題

- ・空調設備が美術館仕様となっており、用途によっては設備全体の見直しが必要となる
- ・床、天井に排水管きょが未敷設のため、使用水量の多い用途に転用する場合、排水量が不足する
- ・4、5階が無窓のため、住宅、病院等の用途に利用するには開口部が不足している
- ・ガス設備が未設置のため、用途によっては設置が必要となる
- ・集客力の高いテナントでなければ、収益性を確保しにくい

3 今後の予定

- ・平成28年9月から市公有財産運用協議会を通じて全庁的な利用要望を照会中
- ・文化振興以外の用途を含め、施設の活用方法について民間事業者等に広く呼びかけ、ヒアリングを実施